

参考文献

- 「ウサギと齧歯類の生物学と臨床医学」養賢堂 Harkness & Wagner 今道友則監訳
- 「図説 動物実験の手技手法」共立出版(株) 緒方規矩雄監修
- 「実験用ウサギの生物学—繁殖, 疾病と飼育管理—」文永堂 Weisbroth Flatt Kraus 板垣他訳
- 「実験動物のための無菌動物技術」ソフトサイエンス社 前島他編
- 「うさぎの臨床」インターズー Lieve Okerman 齊藤久美子訳
- 「うさぎ学入門」インターズー 齊藤久美子
- 「ウサギ—生殖生理と実験手技」佐久間勇次監修
- 「Nib:JWNS系の性能調査—実験用ウサギ増殖普及事業報告書」社団法人日本実験動物協会
- 「兎の解剖図譜」学窓社 R.Barone, C.Pavaux, P.C.Blin, P.Cue
- 「Q & A 実験動物の病気と衛生」清至書院 鍵山・大島・中川著
- 「初心者のための動物実験手技Ⅱ—ウサギ・モルモット—」講談社サイエンティフィック 鈴木潔編
- 「微生物モニタリング手順書」日本エスエルシー株式会社 品質管理部
- 「カラーアトラス 目で見える実験動物の病気」ソフトサイエンス社 武藤・中川著
- 「実験動物の断面解剖アトラス(ウサギ編)」チクサン出版社 岩城・早川・山下著
- 「ふれあい—指導案—」監修 (社)群馬県獣医師会
- 「生殖工学のための講座 卵子研究法」養賢堂 鈴木・佐藤共編
- 「ウサギの繁殖について」成田行廣 養賢堂 畜産の研究 平成10年1月号
- 「営農対策部資料 兎の飼方」秋田県農業協同組合中央会
- 「ウサギのNRC飼養標準とその利用の仕方」須藤 浩 畜産の研究 昭和56年9月号
- 「ウサギのNRC飼養標準とその利用の仕方(2)」須藤 浩 畜産の研究 昭和56年10月号
- 「牛の臨床検査法」農文協 中村・米村・須藤編
- 「畜産発達史 本篇(第8章養兎の変遷)」農林省畜産局編
- 「実用養兎法」地球出版(株) 衣川義雄著
- 「日本白色種ウサギ(Nib:JWNL他)」社団法人日本実験動物協会
- 「農林水産省家畜改良センターで作出された日本白色種ウサギ Nib:JWNSデータ集(No. 1)」
社団法人 日本実験動物協会
- 「the rabbit husbandry, health and production」
FAO, F. Lebas, P. Coudert, R. Rouvier and H. de Rochambeau
- 「Raising Rabbits」
Rodale Press, Ann Kanable
- 「Reproduction and Breeding Techniques for Laboratory Animals」
Lea & Febiger, Edited by Hafez
- 「Rabbit Production」
The Interstate, Peter R. Cheeke, Nephi M. Patton, Steven D. Lukefahr,
James I. McNitt
- 「A manual for Small-Scale Rabbit Production」
Ronald Newton & Susanna Penman

「Effect of a 48H delayed insemination without a 48H doe-litter separation on performance of non-receptive rabbit does」

World Rabbit Science1999,Vol.7

「Effect of change of cage 2 days before artificial insemination on reproductive performance of rabbit does」

World Rabbit Science1998,Vol.6

DVD版インテグレーションビデオシリーズ「うさぎの臨床1」インターズー 監修 斉藤久美子

DVD版インテグレーションビデオシリーズ「うさぎの臨床2」インターズー 監修 斉藤久美子

DVD版インテグレーションビデオシリーズ「うさぎの臨床3」インターズー 監修 斉藤久美子

おわりに

ウサギについては純然たる「実験動物」としてのウサギ、血清等を採取するための「材料用」としてのウサギ、「ペット」としてのウサギとその利用範囲が広いため、本マニュアルを作成するに当たり、どういった飼養者を対象にするのかについて悩んだところです。結論としては、「実験動物」や「ペット」としてのウサギに関しては多くの書籍が出版されているため、飼養管理については「材料用」としてのウサギを生産されている農家の方々に読んで頂いて、生産効率の向上に役立つものを作ることになりました。また、長野牧場におけるウサギの維持について今後生体維持から凍結受精卵での維持に移行せざるを得ないことから、農家の方々には難しいかとは思いましたが、大学や研究機関の方々に長野牧場系のウサギの凍結受精卵を利用して頂く上で必要な受精卵移植に関する技術紹介の部分を付け加えています。最後になりますが本マニュアル作成に当たっては元当场職員である久保氏、金沢(旧姓 境目)氏、海老原氏にご苦労頂いたとともに高知大学の葛西先生にご指導を仰ぎましたことこの場を借りまして御礼申し上げます。

平成18年12月

長野牧場業務課 藤田、名倉、小谷、金沢、赤城



長野牧場業務課のウサギ関係スタッフ

家畜改良センター 技術マニュアル18

ウサギの飼養管理・受精卵移植マニュアル

著 者 家畜改良センター長野牧場業務課
発 行 独立行政法人 家畜改良センター
企画調整部 企画調整課
発行日 平成19年1月
印刷所 中沢印刷株式会社